滋賀県彦根市方言

逸民　誠

項目		基本情報
話者情報	生年	1953年
	生育地	滋賀県彦根市（旧福満村）
	性別	男性
	補足情報	19歳から16年間阪神間での外住歴あり、35歳から滋賀県内在住。 父は福満村、母は日夏村出身（どちらも現彦根市）。
解説	概要	滋賀県の方言は、京都方言との共通性が高い湖南方言（甲賀地方を別区画とすることも多い）と、近畿・中部の接触地帯である湖北方言、そしてその中間的な湖西方言と湖東方言に大分され、彦根市は湖東方言域に位置する。おおむね京都方言と共通するが、待遇表現-アルや中称接頭辞ホ、終助詞ホン（今回の方言訳には登場せず）などが特色に挙げられる。話者の生育地は特殊な表現があるとされる旧城下町や山間集落ではなく、湖東平野の典型的な方言が話される旧農村部である。子供時代の会話あるいは近所の昔馴染みとの会話を想定して訳してある。
	表記	カタカナ音声表記とした。特殊な表記は使用していない。
	文法概説	・断定ヤ、否定-ヘン・-ヒン、推量ヤロ（ー）、-ヨルと-トルによるアスペクト区別なし、ウ音便、条件タラなど、基本的な文法形式は京都と共通する。サ行イ音便は起こらない（この話者は言わず、周囲でも聞かないという）。 ・格助詞オは使わないことが多い。引用トの省略も見られる。 ・第三者待遇を多用する方言らしく、人物が登場する例文のほとんどに待遇表現が補われている。上向き待遇形式には-ハルの変種とされる-アル（一段に後続する場合は-ヤール、サ変はシャール、カ変はキャール）を多用。-アル類は短音化する場合があり、【例文17】のイカセヤッタはイカセヤーッタの短音形で、目下への待遇形式-ヤルではない（-ヤルの使用も話者に確認しているが、今回の方言訳には登場せず）。-ハルも日常語であるが、「関西弁の標準語」という感覚があり、身内やご近所との気の置けない会話という場面設定に合わないため、今回の方言訳には登場せず。下向き待遇形式には-ヨルを多用。「太郎」「花子」「次郎」については「目下の親族や近所の子ども」という場面想定であることから、下向き待遇形式の適用が多い。存在動詞オルならびに継続-ト（ー）ルも下向き待遇相当。 ・否定-ヘンは、五段はイカヘンのようにア列に付く。一段・サ変・カ変は伝統的にはミヤヘン（見）・ネヤヘン（寝）・シヤヘン・キヤヘンとなるが、この話者の世代ではそれらはやや古い形式となり、ミーヒン・ネーヘン・セーヘン・コーヘンが一般的。サ変・カ変にはシーヒン・キーヒンという形もあるが、下の世代の新しい形式という認識。 ・過去否定は伝統的には-ナンダであるが、この話者の世代ではすでに-ンカッタが一般的。-ヘンタのような形もあるが、下の世代の形式という認識。 ・不可能はヨーカカンのようにも言うが、可能動詞を用いたカケンやカケヘンの方が普通で、今回の方言訳には登場せず。 ・使役は-スと-セルを併用する。 ・原因の接続助詞にサカイとデを併用する地域であるが、今回の方言訳にデは登場せず。後で話者に確認したところ、「デは当たり前に使う言葉なので方言という意識があまりなかった」と回答があった。

〔基本例文50〕 滋賀県彦根市方言訳

	方言訳1（もっともよく使う表現）	方言訳2（使うこともある表現）	備考・コメント
1	イマカラ　トモダチニ　テガミ　カク。	コレカラ　トモダチニ　テガミ　カク。 イマカラ　ツレニ　テガミ　カク。	
2	フデデ　テガミオ　カク　ヒトモ　ヤール。	フデデ　テガミ　カク　ヒトモ　オル。	ヤールはイヤハルが変化したもので、上向き待遇（やや距離感あり）。オルは下向き待遇。
3	イエニ　カエッテ　スグ　テガミ　カイタ。	イエニ　モンテカラ　スグニ　テガミ　カイタ。	モンルは「戻る」の転。
4	カイタ　テガミオ　ナンベンモ　ヨミカエス。	カイタ　テガミオ　ナンカイモ　ヨミカエス。	
5	ヨルワ　ジュージニ　ナッタラ　ハヨ　ネヤイ。	ヨルワ　ジュージニ　ナッタラ サッサト　ネンカイナ。	
6	アブナイサカイ　シャドー　アルイタラアカン。	アブナイサカイ　シャドー　アルキナヤ。	連用形＋ナヤは女性的。終止形＋ナも言うが、方言らしく感じない。
7	コノ　ホンワ　タローニ　ヤロ。		
8	ヒルカラ　アメガ　フルヤロ。	ヒルカラ　アメ　フルヤロ。	
9	ハルニ　ナッタラ　ハナガ　サク。		
10	ハナコガ　マド　アケタラ　ムシガ　ハイッテキタ。	ハナコガ　マド　アケタラ　ムシガハイッテキョッタ。	キョッタはキヨッタの縮約。
11	アサワ　アンマリ　テレビ　ミーヒン。	アサワ　アンマリ　テレビ　ミヤヘン。	ミーヒンよりもミヤヘンの方が否定の意志が強い。
12	ハナコワ　ホンナ　バングミナンカ　ミヨラン。	ハナコワ　ホンナ　バングミナンカミタリ　ショーラン。	ショーランはシヨランの縮約。
13	ハナコワ　キノー　テレビオ　ミンカッタ。	ハナコワ　キノー　テレビオ　ミヨランカッタ。	
14	ハナコワ　テレビ　ミント　ホンバカリヨンドル。	ハナコワ　テレビ　ミント　ホンバッカリ　ノンデヤール。	
15	テレビ　ミンカッタラ　コノ　シゴトワキョージューニ　オワッテタヤロニ。	テレビ　ミンカッタラ　コノ　シゴトワ　キョージューニ　オワッテモーテタヤロニ。	
16	ネツ　ダシタ　コドモニ　クスリ　ノマセタ。	ネツ　ダシタ　コドモニ　クスリノマセタッタ。	
17	オカチャンガ　イモートオ　オツカイニイカサッタ。	オカーハンガ　イモートオ　ツカイニ　イカセヤッタ。	イカサッタは、イカサアッタまたはイカセヤッタの縮約。イカサッタとイカセヤッタは同等の上向き待遇。同郷の叔父はオカサン・オカハン・オカ（ー）ハンと言っていた。
18	オトートト　ケンカシテ　ワイダケ　オトーチャンニ　オコラレタ。	オトートト　ケンカシテ　ボクダケオトーチャンニ　オコラレタ。	ワイは子供や友人間での日常的な一人称で、ボクは学校など公的な場で使用する語。成長後の日常語はワシ。オカチャンと違ってオトーチャンは長音を含んで言っているつもりだが、オトチャンと聞こえる場合もあったかもしれない。
19	ルスニ　シテタラ　ドロボーニ　ハイラレタ。	ルスチューニ　ドロボーニ　ハイラレテモタ。	

20	コノ　コワ　マダ　チーサイケド　ムツカシー　カンジガ　カケル。	コノ　コワ　マダ　チーサイケンド　ムツカシー　カンジ　カキヨル。	カキヨルはカッキョルとも言う。
21	キョーワ　ジカンガ　アルサカイ　ユックリ　テガミガ　カケル。		
22	コノ　コワ　マダ　チーサイサカイ　ヒラガナシカ　カケン。	コノ　コワ　マダ　チーサイサカイ　ヒラガナシカ　カケヘン。	
23	ツクエガ　ナイサカイ　ジガ　チャント　カケン。	ツクエガ　ナイカラ　ジーガ　チャント　カケン。	
24	タローワ　イマ　トナリノ　ヘヤデ　ホンオ　ヨンドール。	タローワ　イマ　トナリノ　ヘヤデ　ホンオ　ヨンドル。	ヨンドルの方が断定的、見下しがやや強い。
25	タローワ　ハナコカラ　カリタ　ホンオモー　サイゴマデ　ヨンドル。	タローワ　ハナコカラ　カッタ　ホンオ　モー　サイゴマデ　ヨンデシモトル。	
26	モット　シズカナ　トコデ　ネタイ。		
27	ユーヤケデ　ソラガ　アカイ。	ユーヤケデ　ソラガ　マッカッカヤ。	
28	コドモノ　コロワ　ヒトリデ　トイレニイクノガ　スゴイ　コワカッタ。	コドモノ　コロワ　ヒトリデ　ベンジョニ　イクノガ　ゴッツイ　コワカッタ。	通常はベンジョ。話者の父親はセンチ（雪隠の転）と言っていた。
29	ウドンヤ　ソバ　ヤッタラ　ヤスイヤロ。	ウドンヤ　ソバヤッタナラ　ヤスイヤロ。	
30	フルホンヤニ　ホンオ　タコー　カイトッテモロタ。		
31	テンキガ　ワルーテ　ダレモ　コーヘン。	テンキガ　ワルイサカイ　ダレモ　キヤラヘン／ダレモ　キヨラヘン／ダレモ　キヤヘン。	キヤラヘンとキヨラヘンは待遇表現を用いたもの（前者が上向き、後者が下向き）。
32	モット　ヤスカッタラ　カエタノニ。		
33	ヒトリデ　アソビニ　イッテモ　タノシナイ。		
34	テンキサエ　ヨーナッタラ　デカケラレル。	テンキサエ　ヨーナッタラ　デテイケル／デカケテイケル。	
35	タローワ　マダ　チューガクセーヤ。	タローワ　マダ　チューガクセーヤデ。	
36	コドモノ　トキワ　センエンデモ　タイキンヤッタ。	コドモン　トキワ　センエンデモ　タイキンヤッタ。	
37	コレワ　ドロボーノ　アシアトヤロ。	コレ　ドロボーノ　アシアトヤンカ。	
38	コレワ　ワイノ　カサデ　アレワ　センセノ　カサヤ。	コレワ　ボクノ　カサデ　アレワ　センセノ　カサヤ。	
39	モシ　アシタ　エー　テンキヤッタラ　コドモラオ　ツレテ　ドッカ　イコ。	モシ　アシタ　エー　テンキヤッタラ　コドモラ　ツレテ　ドッカニ　イコ。	
40	コノ　カサト　クツワ　ワシノ　ヤナイ。	コノ　カサト　クツワ　ボクノ　チャウ。	
41	Ａ：アシタモ　ココニ　クルカ？ Ｂ：ウン、コヨ　オモテル。	Ａ：アシタモ　ココニ　クルカ？ Ｂ：ウン、キヨ　オモテルヨ。	キヨは子供時代の言語習得途中の一時的な言い間違いで、成長すると言わなくなった。

42	Ａ：ナンデ　コーヘンノ？　クル　ユーテタヤンカ。 Ｂ：ゴメン　チョット　タイチョー　ワルインヤ。	Ａ：ナンデ　キーヒンノ？　クル　ユーテタヤンカ。 Ｂ：ア、コライテナ　チョット　タイチョーガ　ワルインヤ。	コライテナは「堪えてな」に由来する謝罪の常套句で、「堪忍してください」の意。
43	Ａ：アソコニ　オルノワ　タローカ？ Ｂ：イヤ、タローヤナシニ　ジローヤナイカ？	Ａ：アソコニ　オルノワ　タローカ？ Ｂ：イヤ、タローヤナシニ　ジローチャウカ？	
44	Ａ：ドレガ　オマンノ　カサヤ？ Ｂ：コレ　ワイノ　カサヤデー。	Ａ：ドレガ　オマハンノ　カサヤ？ Ｂ：コレガ　ワシノ　カサヤデー。	相手に対して飾らぬ二人称はオマンで、オマハンはやや丁寧。若い世代ではどちらも衰退。
45	Ａ：コノ　ホン　ヨムンヤッタラ　カシタルデ。 Ｂ：ホノ　ホンナラ　モー　ヨンデモタ。	Ａ：コノ　ホン　ヨムンヤッタラ　カシタロケ。 Ｂ：ホノ　ホンナラ　モー　ヨンデシモタ。	
46	Ａ：トナリノ　イエニ　ドロボーガ　ハイッタンヤテー。 Ｂ：エ、ホーカ？　トナリニ　ハイッタンナラ　ウットコモ　キー　ツケント　アカンナー。	Ａ：トナリノ　イエニ　ドロボーガ　ハイッタンヤテー。 Ｂ：エ、ホーカ？　トナリニ　ハイッタンナラ　ウットコモ　キー　ツケント　アカンネー。	ウットコはウチネ、隣の家はトナリネやウラネとも言う。ネは「の家」の縮約で、ほかにヒガシネ（東の隣家）、ニシネ（西の隣家）などの例がある。
47	Ａ：アメ　フリソーヤカラ　マド　シメトイテ。 Ｂ：モー　シメタールデー。	Ａ：アメ　フリソヤサカイ　マド　シメトイテ。 Ｂ：モー　シメタールデ。	
48	Ａ：ソバ　タベニ　イコ。 Ｂ：ソバヨリ　ウドンノ　ホーガ　エーナー。	Ａ：ソバ　タベニ　イコマイ。 Ｂ：ソバヨリ　ウドンノ　ホーガ　エーワ。	マイは廃れつつある形式で、下の世代との会話では使用をためらう。
49	Ａ：イロハショテントユー　ホンヤガ　ドコニ　アルカ　シランカ？ Ｂ：シッテルデ。ムコーニ　カンバンガ　ミエルヤロ？	Ａ：イロハショテンチュー　ホンヤガ　ドコニ　アルカ　シランケ？ Ｂ：シッテルデ。アッチニ　カンバンガ　ミエルヤロー？	ケは気安い間柄でないと使えない、かなりくだけた形式。
50	Ａ：フナズシテ　クータ　コト　アルカ？ Ｂ：ウン、アレテ　ホンマニ　ウマイナー。	Ａ：フナズシテ　クタ　コト　アルケ？ Ｂ：オン、アレテ　ホンマニ　ウマイノー。	ナーとノーを比べると、一般的な形式はナーで、ノーは子供時代によく用いたかなりくだけた形式。なお、ウマイの対義語はアンナイ（味無い）。